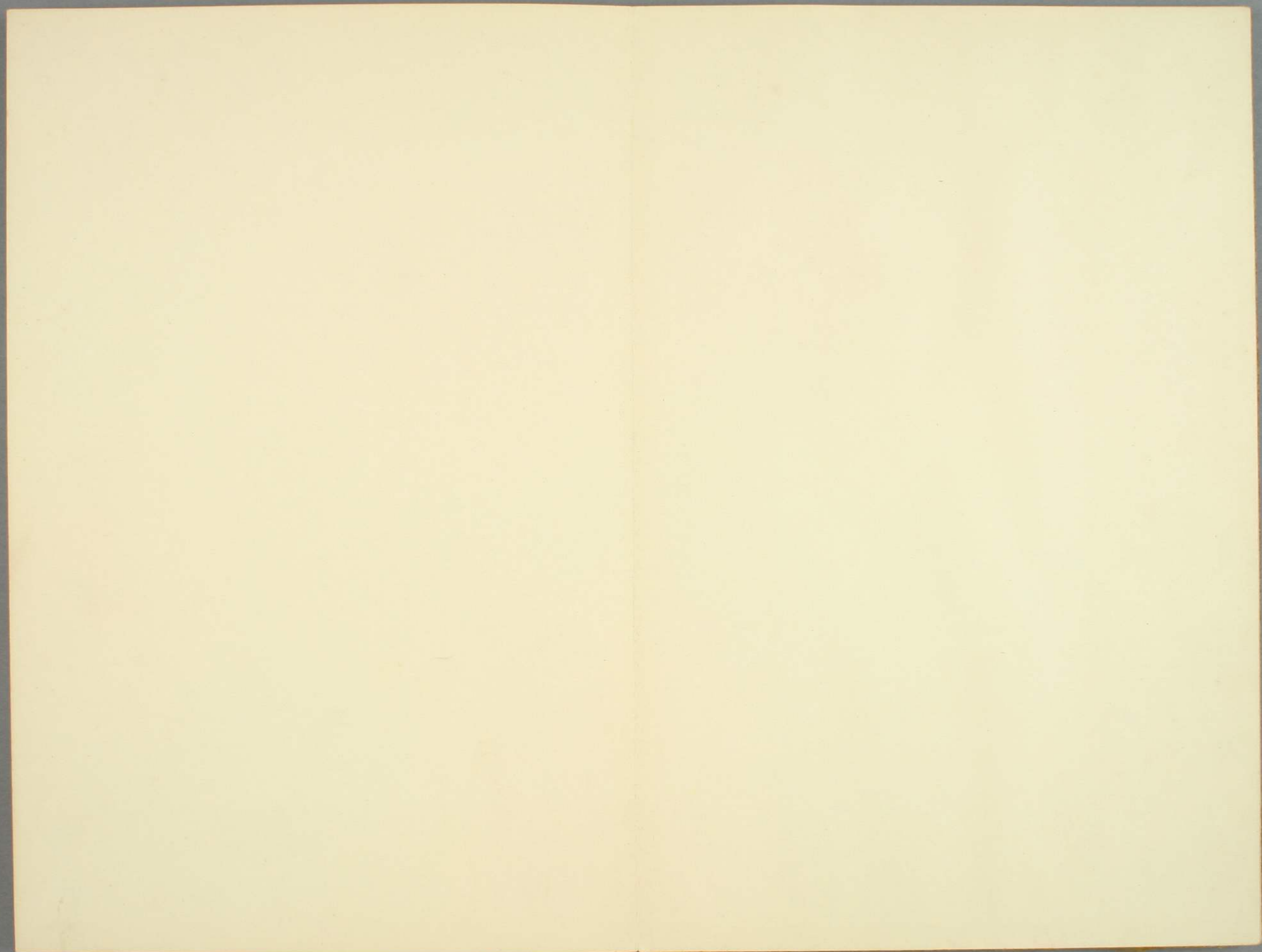


かみこえと原竹
 かみこ新編
 廿四園詩苑

特別
 文庫14
 A155







シヤス、ピーヤ氏著「シヤ」中の一段

マリーク、アント子一の諒察

我同胞の羅馬人よ

諸君の耳を貸し給へ

シヤル公を埋めん為

そと世の人を離さして

死して後子の為れども

墓をくらつる人知らん

又斯くはあれシヤルも

いつはりおぬブルタスハ

國を愛する人々よ

其此所来れるハ

答めんとすおあらぬそよ

悪事を為せば悪名ハ

善事ハ骨と墓を人も

成るハ天下の羽あり

世の羽白あら是非をち

シヤル公ハ覇心ある

人とお北首お聞かせや

最し痛ましき過失あり

報へる様も痛ましや

其他の人の許可を得て

其他の人も北首都て

此所お来れる其の意ハ

諒察あさん為をかし

我お取らしてハシヤルハ

そは去乍シヤルハ

諸君お告げーブルタスハ

実みさる事のありしに

其過のシヤルハ

今某ブルタス

ブルタス公ハ我心あり

我心の強き者あれハ

シヤル公の葬礼ハ

人お取らしてハ知らん

信義の深き友ありき

覇心のありー者ありと

いつはりおぬ人あるに

セイサルらが生捕りて
じりおの敷におひまじり
とりおの身をもば賜へり
秘せしかさへあらりて
斯らても覇心ある者し
つゝあき連の人達の
憐ふかきセイサルハ
斯ハ情ある人なりて
さへ告あからセイサルハ
諸君も告げしブルタスハ

引連れ國不帰られし
敵は多分の金を出し
志てセイサルハ其の金も
國の藏をば充てられき
セイサルらに見えたるは
嘆かきけふを見れば
共不袖をばぬらされき
覇心を懐く事ありや
覇心といふ者ありと
つゝりやぬ人ありぞ

り過ルカルて某が
敵どし事いづれもの
志てセイサルハ冠を
西朝心のありし故あるら
覇心のありし者ありと
傷云ぬ人あるは
支るふともば口は心の
唯某ハ某の辨也
演説あせん心あり
つと慕ひいせしりし

王の冠三度あは
自ら母多る所あり
三度三度辨めらば
さへ去あうらセイサルハ
諸君も告げしブルタスハ
そも某ハブルタスの
あきんと致す者あらは
知れる事共いづれも不
曾て諸君ハ北自共ら不
志て又其の理由の

あつりしとあつらせりき
公の死せるをなげき
正邦の神人涯を
道なき里を行われしや
人ふ罪非の差別あり
今某の魂ハ
ミイサに公の傍へ
心の我を帰るも
志て昨日がミイサの
逆ける者望みし下

されは諸君ハ何故ニ
さてても浅間ヤ
去行き終ひ禽獸の
今の世界ハヤ打あそぶ
ゆるしめされよいつれも
御所の権の其内の
歎り申し候へば
暫人猶縁を給ハ
命ハ天下に許ありて
実ふいふ事ヤ今の様

公ハ彼所を居らるも
故やとのあらぬしハ
益あるを陳へし身
いづれも方の悪く
二ふ対し某ハ
諸君も共ハ知る如く
君士と云ハ人あるぞ
自命を害し諸君をも
斯る君士を望まんや
ミイサに公の出来印の

如何不賤の者として
ア、あやまてり某の
彼のブルタスヤカシヤス
不慮の事も至かは
何人と云譯致せんや
彼人ハい悪く
ミイサに公を害すとも
害するといふ事んと
さし言は此あるハ
握れる一の巻物也

一新合十五周年記念
古書衣(昭和三十九年
八月二十三日)に脱落
價税二万八千円
一減価償却
